



- 研究テーマ いじめ問題解決の4つの介入視点
- 所属職名氏名 教職開発講座 教授 池島徳大
- 研究シーズ概要

(1)いじめは「心的外傷(PTSD)を引き起こす事態であるとの強い認識をもつ。

(2)「ヴァルネラビリティー “Vulnerability”」への着目と支援を行う。

・・ヴァルネラビリティーとは、「攻撃誘発性」(いじめられやすさ)のこと。主に、身体的違和感や行動面から生じ、異質なものを排除しようとする雰囲気支配する集団で生じやすい。ヴァルネラブル子がいた場合、個別支援の必要な子として対応し、「いじめられる子どもに問題はない」との強い指導観をもって集団のなかで自己存在感を高める支援を検討する。

(3) 集団内に生じるピア・プレッシャー(Peer Pressure)への理解と支援を行う。

・・学級には、強い者に同調し服従しようとする集団心理(仲間による同調圧力)が常に働いていることを理解し、集団内で生じる過緊張をほぐし、安心して表現できる人間関係づくりを進める。

(4)もめごと(対立)問題が起こるのは自然なことである。

・・いじめはあってはならぬが、もめごと段階から対話を通してお互いの葛藤を引き出し、両者の言い分を相互に聞き及んで、共に成長しようとする機会ととらえて対応を進める。